

- 1 日時・場所 平成26年1月17日(木) 第4限 多目的室
- 2 学 級 2年7組 ※分割授業
出席番号 1～20番
出席番号21～39番 ※本時のクラス
- 3 生徒観
- 4 教材観 コミュニケーションをとる相手としては、利用者だけに留まらず、利用者家族や介護施設職員、多職種とのコミュニケーションも必要となってくる。このように、チームケアの考えを持つことで、より円滑な支援を行うことができる。その為にも、チームでコミュニケーションを取る場合に留意しなければいけない事項を押さえておくことが必要である。
- 5 単元名 介護におけるチームのコミュニケーション
- 6 単元目標 ① 介護記録の意義と目的について理解する。
② 介護記録の種類と、その記録を書くにあたっての留意点を理解する。
③ 会議の意義と目的を理解する。
④ 会議の種類と、その会議で留意しなければいけないことを理解する。
- 7 指導計画 1 記録による情報の共有化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
(1) 介護記録の意義と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間(本時)
(2) 記録の種類・構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
2 報告と申し送り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
3 会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
(1)会議の意義と目的、留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
(2)会議の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
(3)ケースカンファレンスの方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 8 本時の目標 ① 介護記録における8つの目的を理解できる。
- 9 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①介護福祉士国家試験を意識し、記録の目的についての知識を身に付けようとしているか。	②介護記録の記述方法について考えることが出来たか。	③ワークプリントへの記入を行うことが出来たか。	④介護記録の目的や、介護記録に関する関連用語が理解できたか。

10 本時の計画「記録の目的」

時間	生徒の学習内容	生徒の学習活動	教師の指導方法と留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 出欠の確認 前時の振り返り 本時の内容を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 記録の意義について復習する。 本時の授業内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に取り組む環境を整える。 本時の目標を明確化し、伝える。 	
展開 ① 40分	<p>介護記録における8つの目的</p> <p>①利用者の生活の質を向上させるため。</p> <p>②より適切な介護サービスを利用者に提供するため。</p> <p>③介護福祉サービス提供機関や施設の運営管理のため。</p> <p>④介護福祉士の教育訓練のため。</p> <p>⑤介護福祉士のスーパービジョンのため。</p> <p>⑥介護福祉に関する調査や研究のため。</p> <p>⑦既存の介護福祉の知識の評価や新しい介護</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実習で見聞きしたことをイメージして説明を聞く。 実習記録を思い浮かべながら説明を聞く。 実習での利用者との関わりをイメージしながら、説明を聞く。 施設運営や管理のために、日々の記録が大切であることを理解する。 逐語記録、経過記録、要約記録の違いについて理解する。 それぞれの記録方法で失われる情報があることを理解する。 叙述体や説明体について理解する。 スーパーバイザーとスーパーバイジーについて理解し、スーパービジョンがなぜ必要かを理解する。 質的調査や量的調査とはどのようなものかを理解する。 介護記録が知識の見直しや算出に貢献することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、実習で体験したことを思い出すような発問をする。 「継続性」とはどのようなところで必要となるのかに触れながら説明する。 「応答的实践」「意図的实践」とはどのようなことか、例に触れながら説明する。 利用者との関わりで、常に「なぜ？」という疑問を持つ姿勢が大切であることを意識づける。 どのような時に介護実践記録を資料として使用するかを説明する。 記録の書き方によって、注目する点が違うことを説明する。 様々な記録方法を取ることで、より広い視野を持つことができ、多くの気づきに繋がることを説明する。 介護福祉士のプロとは何かと発問し、有資格者であることがプロではないことを伝え、資格取得は専門職としてのスタートであることを説明する。 個人の介護の質向上ではなく、介護福祉という広い分野への、データの貢献のためであることを、質的調査・量的調査というワードを使って説明する。 介護福祉という分野は、まだまだ発展途上であることを説明し、過去 	<p>①③</p> <p>②</p> <p>②</p>

	<p>の知識を生み出すため。</p> <p>⑧介護福祉に関わる統計や社会福祉全般の向上のため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 否定的内容(ネガティブデータ)と肯定的内容(ポジティブデータ)を比較し、新たな観点とはどのようなものかを理解する。 	<p>の記録の見直しが新しい実践を生むきっかけになることを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の観点に加え、新たな観点で物事を捉えることができるようになることを、否定的内容(ネガティブデータ)と肯定的内容(ポジティブデータ)を例に出して説明する。 	
<p>ま と め</p> <p>5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の内容の確認 ・ 小テスト回収 ・ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○×問題の小テストを解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出することを告げて、テストを開始する。 	④

【介護記録の目的】

○介護記録における8つの目的

① 「利用者の(5.)」を向上させるため」

→利用者の(8.)に重視し、生活支援を展開する。

② 「より適切な介護サービスを利用者に提供するため」

→利用者の行動だけではなく、介護職の応答的、意図的实践が記録に反映され共有されるように、介護実践の記録を書く。

ex) 「昼食は一人で食べることが出来たが、半分ほど残した。」



「昼食時にいつも使用しているスプーンでは食べづらそうだったので、持つところにスポンジを巻き持ちやすくした。先ほどよりは、食べやすくなったみたいだ。」

「午前中は、言葉数が少なく、いつもより無口であった。」



「午前中、いつもより言葉数が少なかったのですが、一緒に散歩に出たところ笑顔が戻った。また、散歩中に様々な花や植物のお話を楽しそうにしていた。」

③ 「介護福祉サービス提供機関や施設の運営管理のため」

→施設長が現場でどのような介護実践が行なわれているのかを把握するためや、社会からの付託の場合には、その目的に沿って事業を行なっているかを報告する資料として使われる。

④ 「介護福祉士の教育や現任訓練のため」

- ・(9.)記録：ワーカーや利用者の言葉の一字一句の記録。ワーカーと利用者のやりとりや微妙なニュアンスが再現される。
- ・(10.)記録：介護実施過程の記録。記録者が記録に残す必要があると思われたものが記録される。従って、記録者によって内容が変わる。
- ・(11.)記録：不必要に記録が長くなり、無駄な記録を避けるために要点を整理した記録。細かな記録ではなく大要を把握するための記録。

→以上の記録を新人に書かせることで、発言や行動の気づきを促す。

【介護記録の目的】

○介護記録における8つの目的

④ 「介護福祉士の教育や現任訓練のため」

補足プリント

- () : 客観的事実や起こったことを時系列通りそのまま記述する文体である。
- () : 根拠や見た事実、聞いた事実に対する判断が入った文章であり、専門職としての能力が評価できる。また、記録者の知識や介護観、援助観や専門的な視点が挿入された文体である。
- 問題志向型の記録 ()
 - S : サブジェクトデータ(subject data) : ()
 - O : オブジェクトデータ(object data) : ()
 - A : アセスメント(assessment) : ()
 - P : プランニング(planning) : ()

担当 : 大森 太貴

⑤ 「介護福祉士のスーパービジョンのため」

→スーパービジョンは、熟練した主任介護福祉士などの(12.)と未熟練の介護職員である(13.)との間で繰り返される専門職能力を高めるための管理的、教育的、指示的機能を駆使して展開されるキャリア教育。

⑥ 「介護福祉士に関する調査や研究のため」

→何らかの目的に沿った調査・研究は、施設居住者の(14.)や精神機能の程度はどうか、できるだけオムツを使用しない工夫をしたらどのような変化が起こったか等の実践記録をとり、適切な関わり方を証拠(7.)として記録化する。

⑦ 「既存の介護福祉の知識の評価や新しい介護の知識を生み出すため」

→今までの介護福祉の知識では対応できない問題が起こると、新たな対処法が求められる。そこで、過去の介護記録を見直すことで、そのヒントや解決策を得る。

⑧ 「介護福祉に関わる統計や社会福祉全般の向上のため」

→「食事」「排泄」「入浴」「着脱」「移動」等の各側面に関わる業務統計は、新しい介護福祉の理念に応じて見直される。

【記録の役割と機能】

記録には人と人の心、サービスとサービスをつなぐ(15.)、サービスや生活の質を把握する(16.)、介護事故を予防する(17.)、援助者やサービスの役割を確認する(18.)、職員の教育を助ける(19.)などがある。

○上記のことを意識することでどうなる？

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

介護記録の目的 小テスト

- 1 介護記録は、利用者の生活の質を向上させるためにある。
- 2 介護記録は、利用者の行動を記録するものなので、介護職の応答的、意図的实践は記述する必要はない。
- 3 経過記録とは、ワーカーや利用者の言葉を、一字一句記録するものである。
- 4 スーパービジョンは、スーパーバイザーがスーパーバイザーに行う、管理的機能・教育的機能・支持的機能を含めたキャリア教育のことである。
- 5 質的調査とは、現象を記述データに置き換え、そこから何らかの関係性を見出そうとする調査研究である。

1		2		3		4		5	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

2年7組 番 名前